

政井 美穂さん

Miho Masai

日本語教師

1992年生まれ。福島県いわき光洋高校から実践女子大学文学部国文学科、同大学院文学研究科国文学専攻修了。現在、同大日本語集中プログラム講師、日本体育大学荏原高校日本語教師などを務めている



子どもの頃から文章を書くのが楽しく、国語の授業が大好きでした。もっと国語を勉強したいと思っていたところ、歴史と伝統がある実践女子大学への入学を勧められました。入学後のオリエンテーションで、副専攻で履修できる日本語教員養成コースの話を山内博之先生から伺い、関心を持つようになりました。講義を聞き、留学生の相談相手などをするメンターが楽しく、もう少し勉強したいと大学院（修士課程）にも進みました。日本語教師は、「日本の顔」としての役割を果たしていると言われます。外国の方に日本語を教えることは、この国の文化や歴史を

伝えることにつながります。授業の準備をしたり、教え子たちから刺激を受ける中で、自分も成長していることを実感しています。私は福島県いわき市の出身です。大学1年の3月、帰省している時に東日本大震災がありました。幸い家族は全員無事で、学費などで大学の方々にも助けられ、今があります。それだけに、少々辛いことがあっても「きちんと生きていかなきゃいけない」と考えるようになりました。外国から夢や希望を持って来日した生徒や学生に、この国の魅力を伝え、好きになってもらえるように努力を続けていきたい、と思っています。



大学の卒業式後の謝恩会で、ゼミのメンバーたちと。後列左から2人目が政井さん、中央が山内教授

留学生と日本の懸け橋として



男女共同参画推進担当理事
短期大学部長

高瀬真理子教授

政井さんは、教員との出会いから日本語教員養成コースという副専攻に目を開かれ、留学生とのコミュニケーションという実践を通し、学問へのさらなる意欲が生まれています。東日本大震災という未曾有の体験も含め、日本と日本人について深く認識し、国内にいながらにして世界とつながっています。「実践女子」という名を体現した学び方だと思っています。